

## 短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 4月 11日記入

氏名	ふりがな	所属	職 位	性別
桜井 恵子	さくらい けいこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・助教	男・♀

## 担当科目名

教育原理

## 学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
昭和 50(1975)年 3月	東京学芸大学 教育学部 特別教科教員養成課程 数学科 卒業	教育学士
昭和 50(1975)年 4月	東京学芸大学大学院 教育学研究科数学教育専攻(修士課程)入学	
昭和 52(1977)年 3月	東京学芸大学大学院 教育学研究科数学教育専攻(修士課程) 修了	教育学修士
平成 13(2001)年 4月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科発達社会科学専攻(博士前期課程)入学	
平成 16(2004)年 3月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科発達社会科学専攻(博士前期課程)修了	修士(社会科学)
平成 16(2004)年 4月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達科学専攻(博士後期課程)入学	
平成 22(2010)年 9月	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科人間発達科学専攻(博士後期課程)修了	博士(社会科学)

## 教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
神奈川県大和市立つきみ野中学校(産休育休代替)	昭和 56年 9月 ～昭和 57年 3月	「数学科」担当
光明学園相模原高校 (非常勤講師)	昭和 57年 9月 ～昭和 58年 3月	「数学科」担当
東京大学教育学部附属中学校 (非常勤講師)	昭和 60年 4月 ～昭和 61年 3月	「数学科」担当
神奈川県立市ヶ尾高校(非常勤講師)	昭和 61年 4月 ～昭和 63年 3月	「数学科」担当
神奈川県立相模大野高校(非常勤講師)	昭和 63年 4月 ～平成 2年 3月	「数学科」担当
神奈川県立厚木北高校(非常勤講師)	平成 2年 4月 ～平成 6年 3月	「数学科」担当
東京都立八王子北高校(非常勤講師)	平成 5年 9月 ～平成 7年 3月	「数学科」担当
国立教育研究所科学教育研究センター(共同研究員)	平成 7年 6月 ～平成 8年 3月	数学教育史の研究
日本体育大学付属桜華女学院中・高等学校(専任講師)	平成 8年 4月 ～平成 10年 3月	「数学科」担当
日本体育大学付属桜華女学院中・高等学校(非常勤講師)	平成 10年 4月 ～平成 13年 3月	「数学科」担当
お茶の水女子大学 COE (研究員)	平成 16年 5月 ～平成 17年 2月	「誕生から死までの人間発達科学」の調査研究
東海大学教職課程 (非常勤講師)	平成 19年 4月 ～平成 20年 3月	「教育原理」「教職論」担当
埼玉学園大学人間学部 (非常勤講師)	平成 19年 9月 ～平成 24年 3月	「算数」担当
武蔵野美術大学 (非常勤講師)	平成 20年 4月 ～平成 22年 3月	「教職総合演習」担当

青山学院大学教育人間科学部 (非常勤講師)	平成22年9月 ～平成26年3月	「教育課程論」担当
青山学院大学教職課程 (非常勤講師)	平成23年4月 ～平成29年3月	「教育課程編成法」担当
実践女子大学教職課程 (非常勤講師)	平成23年4月 ～平成27年8月	「教職入門」「教育課程論」担当
立教大学 学校・社会教育講座 (非常勤講師)	平成23年9月 ～平成28年3月	「数学科教育法」担当
横浜市立大学教職課程 (非常勤講師)	平成25年4月 ～平成28年3月	「教育課程論」担当
東京未来大学 (非常勤講師)	平成26年4月 ～平成27年3月	「算数」「数学」「初等算数科教育法」担当
小田原短期大学	平成28年4月 ～現在	保育学科通信教育課程 教授

所属学会等

名称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
(社)日本数学教育学会	平成2年10月～現在	大会参加・口頭発表
教育史学会	平成11年2月～現在	大会参加・口頭発表
日本数学教育史学会	平成12年11月～現在	大会参加・口頭発表・幹事 (平成12年11月～平成18年10月、平成20年11月～平成28年10月)
(社)日本教育学会	平成18年5月～現在	大会参加・口頭発表
(社)日本保育学会	平成28年5月～現在	大会参加
幼児教育史学会	平成29年～現在	大会参加

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
パフォーマンス・アセスメント講習会	平成21年8月 ～平成22年8月	お茶の水女子大学が実施した「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」に関連して、調査地域の市教育研究所にてパフォーマンス・アセスメント講習会講師を務める。
立教女学院教員授業研究会	平成24年2月	立教女学院教員授業研究会において講師を務める。

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
中学校教諭1級普通免許状 (数学)	昭和50年 3月	東京都教育委員会 (昭50中1普第2446号)
高等学校教諭2級普通免許状 (数学)	昭和50年 3月	東京都教育委員会 (昭50高2普第2447号)

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 近代日本算術教育史	単著	平成26年 7月	学術出版会	明治から昭和初期に至る、小学校の歴史をえがいた。その際、算術教育に焦点を当てて、教科書、また実際に授業を行っている教員たちの主張の変化から、影響を与えた教育思想、求められる国民像の変化を追った。そこでは、数量的に考えることのできる国民、科学の発展を担える国民の育成の要求とともに、子どもの心理にもとづき主体的活動によって学ばせる児童中心主義の思想が、強い影響を与えていた。
(学術論文) 1. 稲次静一の算術教育論—児童中心主義と教科系統学習の統	単著	平成21年 3月	お茶の水女子大学大学院『人間文化創成科学論叢』第11巻 pp. 237-245	児童中心主義と系統主義の思想の統合を試みた、稲次静一の主張を検討した。彼は教科の系統に従って、知識・技能をしっかりと子どもの身につけさせようとしたが、それと共にその授業の流れの中に子どもの主体的

合の試み—(査読付)				活動を取り入れ、思考力・態度を育てようとした。この点で彼の主張は、児童中心主義の思想を取り入れたものであったことを明らかにした。
2. パフォーマンス・アセスメントを用いた教師の力量向上の試み	共著	平成 22 年 3 月	お茶の水女子大学『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究第 13 集』pp. 55-62	思考力や表現力といった力が、どれだけ身についたかを評価するのが、パフォーマンス・アセスメントである。この評価方法を取り入れることにより、教師の教材把握や子どもを理解する力が、進歩することを実証した。共著者：桜井恵子、橋本雅史、喜多輝頭。担当部分：pp. 55-56、pp. 61-62
3. 近代日本の算術教育をめぐる改革論議の研究—東京高等師範学校附属小学校を中心に—(博士論文)	単著	平成 22 年 9 月	お茶の水女子大学	「子どもの主体性」の尊重は、近代教育の基本原則である。近代日本におけるその浸透の歴史を、算術を視点に検討した。その結果、今まで大正新教育運動は、明治期の詰め込み教育に反対して、子どもの心理と生活を尊重したとされてきたが、その主張はむしろ「子どもの主体性」重視にあることを明らかにした。「主体性」の尊重は、民主主義の担い手育成のためであった。それと同時に、もう一方で発明・発見のできる人間の育成という、科学振興の要請とも結びついていた。
4. 数学教育における教育課程編成の方法—戦前期にみる男女差の検討から—	単著	平成 27 年 3 月	青山学院大学『教職研究』第 1 号、pp. 23-33	第二次大戦前は、教育における男女平等が完全には実現していなかった。中等教育は異なる内容で行われ、数学を例にとれば女子には男子よりも簡単な内容しか教えられなかった。しかし第一次大戦を経て、男女平等の思想が広まり、同時に科学振興の要請が母親の教養を高めようという主張を生み、徐々に男子に近い内容が、法令を越えて教えられるようになっていった。
(研究ノート) 保育内容「環境」の史的考察—戦時期における保育内容「観察」の変化について—(査読付)	単独	平成 29 年 3 月	小田原短期大学『小田原短期大学研究紀要』第 47 号 pp. 198-202	戦時期における保育内容「観察」の変化を明らかにすることをめざし、東京女子高等師範学校附属幼稚園編『系統的保育案の実際』の 1935 年版と 41 年版を比較検討した。その結果、先行研究で指摘されている軍艦などの軍隊と関係するものが加わっているほかに、物理的内容、実験道具、算数的内容が増え、さらに算数的内容においては、早期化、高度化が見られることがわかった。幼児への科学教育論に、自主性尊重の理念が見られることへの検討は、課題として残した。
(学会発表) 1. 稲次静一の算術教育論	単独	平成 20 年 11 月	第 8 回日本数学教育史学会(筑波大学)	前掲論文「稲次静一の算術教育論—児童中心主義と教科系統学習の統合の試み—」に同じ。
2. 大正新教育運動期における東京高等師範学校附属小学校	単独	平成 22 年 11 月	第 43 回日本数学教育学会数学教育論文発表会(宮崎大学)	大正新教育運動期の東京高等師範学校附属小学校の教員たちの意見を、教育思想、教育方法の面から検討した。彼らは新教育運動には批判的だったが、それは新教育の主張する子どもの興味関心の尊重を否定する立場ではなく、その方法論において反対するものだった。
3. 1926 年小学校令施行規則改正による高等小学校算術教育の変化	単独	平成 27 年 8 月	第 74 回日本教育学会(お茶の水女子大学)	明治 5 年の学制では、すべての国民が教育によりその能力を伸ばし、それに応じて仕事についていくことが謳われた。しかし実際には大正時代に入っても、初等教育修了後は、階層により受けることのできる教育の差は激しかった。けれど大正末期になると、すべての国民に中等教育まで与えようとする動きが進んでくることを、数学を例に示した。この背景には、産業の高度化を担う人材の育成の要求とともに、人間は平等であるという民主主義の思想の広まりがあった。
4. 戦時期における幼児への科学教育	単独	平成 29 年 8 月	第 76 回日本教育学会(桜美林大学)	先行研究では、第 2 次世界大戦中でも幼児への自然科学の教育に関しては、戦争の影響はなかったとされている。しかし、マスコミにおいては科学戦のための幼児への科学教育の必要が叫ばれ、実践にも変化が見られた。

(その他) (書評にこたえて) 著者から書評者へ	単著	平成 27 年 8 月	『日本教育史研究』 第 34 号 pp. 225-228	拙著『近代日本算術教育史』に対する佐藤英二の書評にこたえた。
(インタビュー記録) 戦前戦後の数学教育に関する証言	共著	平成 28 年 10 月	『数学教育史研究』 第 16 号 pp. 25-34	第 2 次世界大戦前から戦後にわたる、公田藏先生の数学教育の体験をインタビューし、記録としてまとめた。 共著者：公田藏、田中義久、 <u>桜井恵子</u> 、佐藤英二
Organized Session 「7 大学数学教育コンソーシアムの創設を目指して」	共同	平成 28 年 3 月	数学教育学会 2016 年度春季年会 (筑波大学)	数学科の教師教育に必要とされるものについて、招待発表者として報告した。基本的な教科の内容、授業方法に加えて何が必要とされるかについて、数学教育史の講義および卒業後に中・高で教わる数学がどのように役立つかについて学生に調査発表させた、実践報告を行った。
その他 (表彰等)			なし	